大阪府社会福祉協議会・保育部会（大阪府保育協議会）

保育おおさか

No.446

平成24年10月1日

発行人　永野 治男　　編集人　齊藤 和正

大阪市中央区中寺1丁目1-54
TEL.06-6762-9001　FAX.06-6768-2426
http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/

平成25年度当初予算に対する要望に、府からの回答

「平成25年度大阪府当初予算に対する要望」（本誌9月号掲載）について、府からの回答がありました。概要を紹介します。

要望①

地域主権改革による市町村への権限移譲について市町村指導等をさらに充実されたい。

府の回答

「全市町村職員を対象とした研修会の継続実施」、「政令市、中核市を含めた法人説明会の共同実施」及び「府及び移譲を受けた市町村による指導監査実施方針やチェックリストの共同策定」については、さる6月5日に開催した「府・市法人監理・監査関係事務連絡会」の場で府より提案し、これらの課題について検討するため、実務者で構成する「検討ワーキング」を8月に設置した。

「検討ワーキング」における今後の検討状況については、大阪府社会福祉協議会に設置されている「社会福祉法人の所管権限事務移譲に伴う検証ワーキング」に報告するなど、情報提供を行っていく。

今後とも、市町村への権限移譲後の諸課題に対し、政令市や中核市の協力も得ながら市町村と協力・連携して対応に努める。

要望②

保育所の人員等に係る基準の制定にあたり、国の「守るべき基準」の遵守はもとより、保育現場の実情を踏まえ、安心で安全な場となるよう現行基準の引き上げについて国に対して強く要望されたい。

府の回答

保育所の人員等に係る基準条例の制定にあたり、大阪府の実情に、国の基準と異なる内容を定める事情、特性はないことから、国の基準を用いて、大阪府の基準とする。

同条例には、この基準を超え、常に、その設備及び運営を向上させなければならないと規定する予定である。

国に対しては、今後とも保育内容の一層の充実を図るため、財源措置を講ずることを要望する。

保育所の人員等の基準
平成25年4月から施行

「大阪府社会福祉審議会社会福祉施設対策専門分科会」が8月27日に開催され、「社会福祉施設等の人員等に関する基準を定める条例案」についての審議が行われました。

地域主権改革にもとづき、これまで国が一律に決定し、自治体に義務付けてきた社会福祉施設等の人員等の基準について、自治体が制定することになったため審議されたものです。

条例化にあたっては、「従うべき」「参酌すべき」「標準」の3つの基準が国から示されています。「従うべき基準」は、人員配置基準や居室面積基準などがあり、原則国の基準どおりです。「参酌」「標準」の基準は、独自基準の設定が可能です。

高齢・障がいの分野で、一部、府の独自基準が示されましたが、当分科会では保育所の人員等の基準について、国の基準を用いる案が提示されました。

9月定例府議会への条例案提出後、10月下旬に可決される予定です。関係規則等の整備、関係機関や市町村への周知・情報提供が行われ、来年4月から施行されます。

私が毎年、楽しみにしている24時間テレビ。今年は「未来」をテーマに放送されました。

最近ではいじめをはじめ、さまざまな原因による自殺がおこっています。

それに関連する課題が次々と連鎖しており、暗いニュースが後を絶ちません。

この子たちにもそれぞれの未来があったはずなのにと思うと、本当に悲しい気持ちになってきます。

でもその一方で、障がいや課題を抱えながら、空を飛ぶ・山登りに挑戦する・スポーツにも積極的に取り組むなど、最後まであきらめずに挑戦している子どもたちがいます。

また、被災地にボランティアとして参加する高校生たちの、泥まみれになって働く姿に感動の一言です。その一生懸命の中に、明るい未来も垣間見られました。

そして次の日、元気いっぱい園庭を走りまわる子どもたちの笑顔を見て思いました。

みんなの笑顔が、いつまでも続きますように…と！

（編集委員T・T）

調研 investigation research

役立つ調査研究めざし
2つの委員会が新たにスタート

調査研究委員会の活動は、労務管理研修やよい子ネットなどについて、この誌面で報告してきました。今回は、今年度から新たに設けられた「SIDS啓発グループ」と「保育運営グループ」の活動についての中間報告を紹介します。

新しい救急救命方法を研究
SIDS（乳幼児突然死症候群）啓発グループ

乳幼児突然死症候群（Sudden Infant Death Syndrome）の日本での発症頻度は、出生4000人に1人と推定され、生後2カ月から6カ月に多いとされています。乳幼児の成長発達において大切な時期を預かる保育園として、少しでも保育園での事故やこの病気で亡くなる乳幼児を少なくするために、SIDS啓発グループでは、予防と啓発のための活動を行っています。

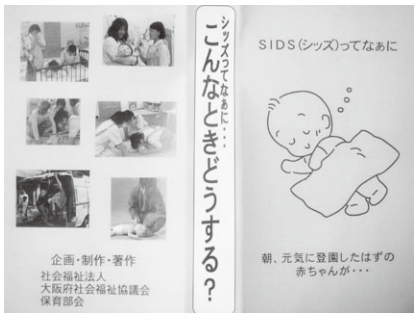
年々減少傾向にあるとはいえ、平成19年には全国で158人もの尊い命が乳幼児突然死症候群で失われています。保育部会ではこれまで、予防のためのマニュアルや冊子を作り、毎年SIDSに関する研修も行ってきました。

平成11年度の保育部会調査研究委員会で、予防およびSIDSが発症した場合の対処方法を映像化したビデオ「SIDSってなあに—こんなときどうする？」を製作しました。

心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使用方法など救急救命方法は、年々新しくなっています。今まで作ってきたものを見直し、心肺蘇生法やAEDなど救急救命方法を研究し、対処法のDVDを製作し、保育園で活用いただけるマニュアルづくりを目指して、今年度の委員会活動を行っていきます。

（調査研究委員N・K）

活発に意見交換をする委員



SIDSってなあに？

よりよい制度と保育園のあり方模索
保育運営グループ

次代の保育園を担う若手の委員が集まり、より良い保育園の姿を模索しつつ、保育園運営と経営のあり方で研鑽を積むことを目的としています。

新たな保育制度改革について、保育園を運営・経営していく立場から、保育現場で感じる疑問点や問題について検証しています。

安定的な経営の維持に関する課題や不安を話し合い、民間保育園の現状を整理して、子どもにも社会にも本当に良い保育制度と保育園のあり方を模索していきます。

第1回は「自分の保育園でこの先不安に思うこと」をテーマに議論。建て替えや保護者支援・対応、保育士の人材育成など、制度、環境の両面からさまざまな意見が出されました。

人材育成については特に重点を置いて話し合いました。外部講師による園内研修や日常の保育の様子をビデオで撮影し、客観的に検証したり、法人間における若手職員のプロジェクトチームの交流・自己啓発・保育内容の統一など、さまざまな職員教育のあり方が見られ、他園の取り組みが自園にも活かせることを話し合いました。

今後は、現場の保育士が「保育の上で今何を大変だと感じているか」「理想の保育環境とはどのようなものか」など、各園の保育士の意見も取り入れながら、毎回のテーマを決め、保育園での疑問点や活動内容などについて話し合っていきます。（調査研究委員T・M）

「介取り（臼取り）」講習会のお知らせ

川崎会（昭和50年代・調査研究委員会メンバーの親睦会）では、日本の伝統を継承するため、餅つきに大きな役割を占める「介取り（臼取り）」の人材育成を図ります。ご興味のある方はぜひご参加ください。

日　時：平成24年11月10日（土）
　　14時～16時
場　所：槇塚台保育園（堺市南区槇塚台3－5）
参加費：2,000円（当日徴収させていただきます）
定　員：20人程度（先着順）
服　装：餅つきができる服

参加希望者は、保育園名、氏名を記入の上、
FAX 072-297-9484 までお申込みください。（様式は問いません）

異年齢交流・食育・リズム運動「3つの柱」を充実・発展

クラスの枠を超えた自由発想の取り組み

茨木市　松ヶ本保育園

社会福祉法人親和会松ヶ本保育園は、平成21年に民営化された定員90人の保育園です。JR茨木駅徒歩5分という通勤に最適な場所柄もあり、地元だけでなく、市内の広範囲の地域から園児が通園しています。

民営化から4年目の今春、「異年齢交流」「食育」「リズム運動」の3つを職員31人の共通の思いとして保育の柱に定めました。

全ての職員が3つの柱のいずれかのグループに入り、年間の指導計画を立てます。目的を明確にして、充実・発展させていくことが重要だからです。

5歳児がお店屋さん

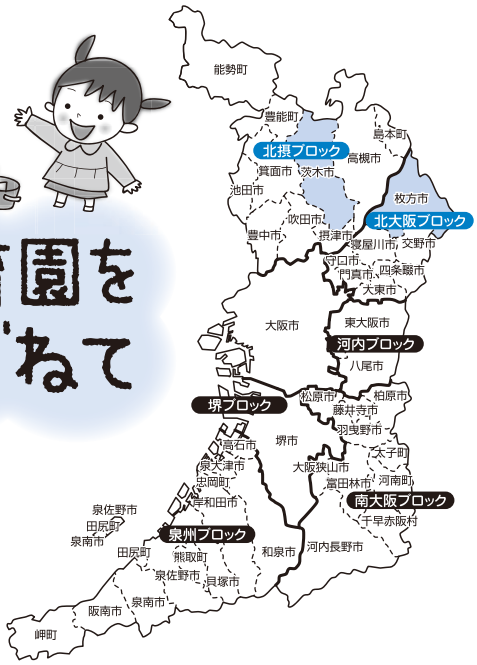
さまざまな保育の営みを結ぶ縦のラインが異年齢交流。幼児と乳児という異なる年齢が生活や活動を共にすることで、思いやりや優しさが子どもたちに培われます。園庭で採れたサツマイモを使った芋パーティーも食育活動だけに留まりません。3歳児が洗い、4歳児が皮をむき、5歳児がお店屋さんになって異年齢交流が行われています。

2歳児以上のリズム運動では、それぞれの取り組みを披露する機会を設けることで、「年上の組にいったらこんなことができる」という挑戦する気持ちと自信が生まれています。

公立の保育園を出発点とした今までの保育の良いところは引き継ぎ、必要に応じた見直しを行い、そこに法人の歴史ある保育を加味する―そうすることで、もう一度自分たちの「保育のかたち」「特色」を創り上げてきました。

クラスの枠を超えた自由発想の取り組みに、いま確かな手応えを感じておられます。（編集委員T・N）

乳児と幼児の交流



保育園をたずねて 456

キリスト教の愛の精神基本に日本の伝統行事も尊重

アレルギー対応食、試食会親子で楽しむ収穫感謝礼拝

枚方市　ハレルヤ保育園

枚方市の北部にあるハレルヤ保育園は、定員26人（0歳～2歳）の小規模保育園です。

キリスト教の愛の精神が保育の基本にあります。クリスマスやイースター礼拝など、牧師様に来ていただく行事や、日本の伝統的な行事も尊重し、七五三や餅つきなどを園行事に取り入れています。

乳児主体の保育園にとって「食事」は、重要な位置を占めます。園のホームページにも献立表を掲載するなど積極的に取り組んでいます。

その一つが「アレルギー対応」です。個々の園児に対して細かく対応食を実施。給食会議やケース会議で職員全員の意識を高め、事故のない体制をづくりをしていますが、「まだ、アレルギーに対する知識が少ない」「知識量のアップ」が課題だとか。

ランチバイキング（試食会）

次に「試食会の工夫」をされています。「味付けや量についても、もっと知りたい」という保護者の声から、お昼寝の時間を利用して試食会（バイキング形式）も開催。当日のメニューや、よく提供するメニューを大皿に盛り付け、自由に試食。簡単なおやつ作りの実演も実施しています。

「収穫感謝礼拝」では、自宅から果物を持って来て「実りに対する感謝の礼拝」の後、親子で参加したお父さんが果物の皮むきのお手伝い。香りや感触も同時に楽しみます。秋の実りの収穫を全員で感謝する貴重な時間を提供されています。（編集委員J・H）

果物の香りが気持ち良い

牧師様による礼拝の様子
みんな真剣です

子どもの発達に合わせた教具 モンテッソーリ教育を基本に

ゆったりとした雰囲気とふれあい 地域一体で子どもたちを育成

松原市　清水保育園

子どもたちの成長を願う清水保育園。ゆったりとした雰囲気の中で、子どもたちが自立して生活できるよう、モンテッソーリが考案した教具を昭和50年の開園時から保育に取り入れています。

0歳児、1歳児はアットホームな雰囲気の中で愛情をたっぷり注がれます。2歳児からは、モンテッソーリ教育に基づいた保育です。3歳児、4歳児、5歳児は縦割りの異年齢児クラスを編成。異なる年齢の子どもとのふれあいの中で、年長児に対する憧れや年少児への思いやりを育みます。

一人ひとりが自由に、自発的に取り組む姿勢を大切に、子どもの発達に合わせた教具を使い、数や言語などの教育的活動へスムーズに導くようにしています。

地域との関わりについても工夫されています。子育て支援センターでは、保育体験や親子絵本クラブ、アートセラピー（油絵教室）や茶道教室などのさまざまな体験や活動を通して、親子のふれあいを大切にした時間を過ごします。

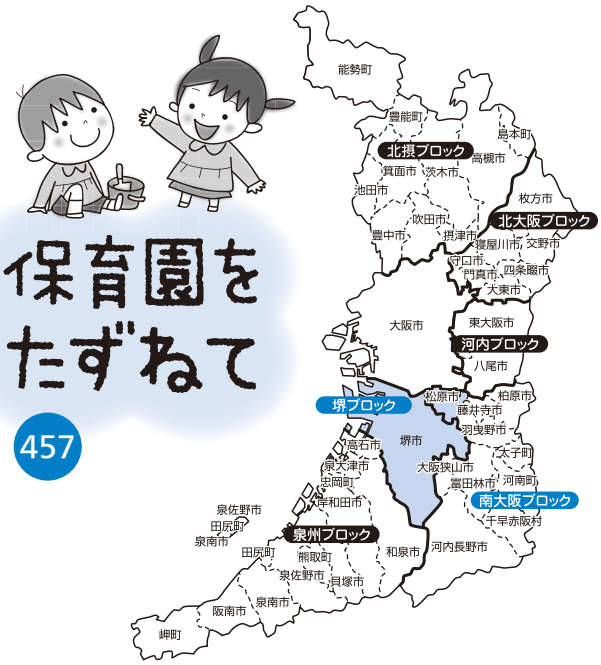
平成18年からはNPO法人パル松原を設立。子育て支援センターと連携しながらシニア世代とコミュニケーションクッキング教室や農園体験など、多彩な体験やふれあいを通して、次世代を担う子どもたちを地域一体となって育成することをめざしています。

「子育てでは、地域の皆さまと協力し、多くの人と関わることで、それぞれができることを、無理のないように続けることが大切です」と、朗らかに話される木野和子園長のゆったりとしたお人柄が園の雰囲気にも滲み出ています。

（編集委員R・Y）

モンテッソーリ教育に基づいた教具

子どもたちに人気の絵本コーナー



「昼間の大きなおうち」「昼間の大きな家族」

毎日繰り返す良い生活習慣 根気強く続ける力を基礎に

堺市　しおあなの森保育園

南海高野線堺東駅からバスで数分の市街地に近い、整備された団地の一角にあるしおあなの森保育園は、堺市立ちぬが丘保育園としおあな保育所（ともに昭和40年代後半～50年代前半に開設）の民営化により、平成24年4月に定員150人で開園されました。

「保育園は〝昼間の大きなおうち〟そこで生活している子どもと大人は〝昼間の大きな家族〟」を保育方針に掲げています。「毎日の生活を大切に」「明日に期待を持つ保育を」「実体験を積み重ねることを大切に」「作ること・食べることが大好きな子に」「心が豊かに大きく育っていく関わりを」「保護者・地域とともに子育て」を保育目標にされています。

毎日繰り返す生活習慣を大切にし、良い生活習慣と根気強く続ける力、人との関わり方を身に付け、人間らしく生きていく力の基礎を育てられています。

菜園で栽培された野菜を、自分たちで調理して食べるなど、食育にも積極的に取り組まれています。3歳～5歳児は調理室とつながったランチルームにおいてお昼ご飯を食べることで、調理員さんとの交流も大切にされています。

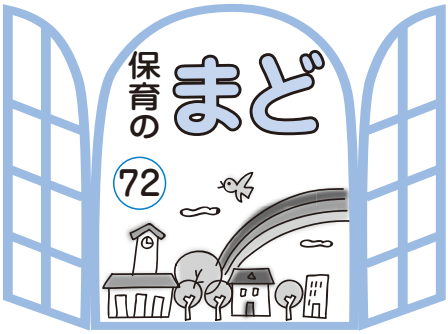
「みんななかよし」というテーマで、最近行われた夕べの集いでは、子どもの視点から、平和について親子でいろいろ考えられたそうです。その時の親から子どもへのメッセージが玄関ホールに展示されています。

地域との関わりも大切にされ、同法人が運営する高齢者施設との交流や校区のイベントなどに積極的に参加。地域の方との交流を深め社会性を育てられています。色々な行事に意欲的に取り組まれる岡本由子園長のお話に感銘を受け、保育園を後にしました。

（編集委員T・S）

調理室が見えるランチルーム

玄関ホールの展示



● よい子ネット ●

保護者から喜ばれる「よい子ネット」

津之江さくら保育園での活用術（高槻市）

子どもたちの園での様子がもっと知りたい

保護者から「子どもたちの園での様子をもっと知りたい」という要望が以前からありました。その要望に応えるため、さまざまな取り組みをしてきました。しかし、十分に伝えることができず悩んでいた時、「よい子ネット」に出会いました。多彩な機能を活用しようと「よい子ネット」を始めました。

「よい子ネット」が保護者の方に浸透するまでに、最初の頃は時間がかかりました。携帯電話の操作が苦手な方には個人的に説明をしたり、案内文の裏面に登録方法を記載したり、いろいろな方法を試しました。4年経った今では、多くの方に利用していただいています。

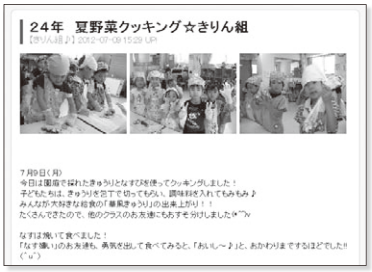
年数を重ねていくうちに、園の様子を伝えるという目的以外にも活用の幅が広がりました。

ブログ機能を使って行事や保育の様子を伝える

トピックスでは、文章と一緒に写真を添付できるので、言葉・文章と合わせてより伝わりやすくなります。園での様子の写真を掲示したこともありますが、保護者以外の方が送り迎えに来られるご家庭や見る時間がない方にも、携帯電話で場所・時間を問わず見ることができるので、より多くの方に見ていただくことができます。

写真が添付されたトピックスには、保護者以外の方がアクセスしても見ることができないよう、パスワードを設定することができるので、個人情報の保護もしっかり行えて安心です。

また、誕生日のお友達を紹介するトピックスを誕生日当日に更新しています。名前は知っていてもクラスが異なれば顔が分からない方もいるので、写真は必ず添付しています。中には、お迎えの時にお誕生日のお友達を見かけると、「今日はお誕生日だね、おめでとう」と声をかけてくださる方もいて、以前に比べて保護者間の交流も増えてきています。



自分の子上手にできたかな？

行事の案内も「園からのお知らせ」のトピックスを作成しています。事前にプリントで同じ内容を配布していますが、知りたい時に簡単に携帯電話で見ることができるので、出先の時や再度確認したい時などに便利です。

保護者から喜ばれるお知らせメール機能

行事の前日に最終案内のメールを送ったり、特別な持ち物がある時・時間厳守で登園してほしい時など、登録している方全員に一斉に送ることができるので、事前に案内していますが、再度連絡することで保護者に喜ばれています。

そのメールはグループごとに配信することもできるので、クラスを限定して連絡をすることや、日にち・時間を指定して配信予約をすることもできるので、前もって作成しておくと園側も送り忘れを防ぐこともできます。

お花見楽しそう♪

以前は台風などの緊急連絡を全て電話連絡で行っており、全ての保護者に連絡するまでに時間もかかっていました。このお知らせメールを利用してからは一斉送信ができるので、保護者の方全員に同時に連絡ができるため、業務が軽減されました。

メールには開封確認機能があり、お仕事中にメールを見ることができない方、メールに気づいていない方など、開封確認をしていない方には同じ内容を再送信。管理画面上では一覧で表示されるので、未確認の方には電話連絡を行うなど、連絡もれを防ぐことができます。

パスワード付きで安心

園の行事や保育園に対する興味・関心が増える

写真を実際に見ることで、より様子が伝わるので、「子どもとの会話も弾みます！」と喜んでくださったり、行事の様子やお誕生日の写真などを携帯電話に記念に保存する方がいらっしゃったり、多くの方が更新を楽しみにしてくださっています。

保護者の方からの喜びの声を実際に聞くと、「よい子ネット」を始めて本当に良かったと思っています。

「よい子ネット」には、まだまだ活用できていない機能が他にも多くあります。これからも、保護者の方々に満足、役立てていただけるようなものにしていくために、日々努力していこうと思います。

（津之江さくら保育園　A・N）

ブロックだより

OSAKA

北大阪

社会人のテーブルマナー研修

8月29日、ヒルトン大阪で「社会人のテーブルマナー」研修会を開催。毎年好評の研修会で、今回も総勢163人が参加。結婚式に出席するという想定でテーブルマナーを学ぶもので、多くの円卓が並び盛り上がりました。

東口房正氏

司会の上野友子先生（池田保育園）が研修会の趣旨を説明。東口房正会長が挨拶で、社会人にとってのテーブルマナーの大切さを述べられました。そして西山梢副会長の乾杯のご発声を皮切りに、樽本英哲氏（ヒルトン大阪料飲部宴会サービススーパーバイザー）による研修が始まりました。

世界を代表する一流ホテルの会場はとても広く、風格ある雰囲気の中、着席からナプキンの使い方や食器の扱い方、食事中のタブーなど、スライドを使いながら細部にわたって分かりやすく説明されました。

研修会の様子

献立はデザートを含めても美味しく、時間のたつのも忘れるほど、終始和やかな研修会でした。

社会人として恥ずかしくない正式なマナーを教わった充実の研修でした。参加した保育士たちの品格も一段と上がったように思えました。（仁和寺保育園K・S）

河内

東大阪市私立保育会障がい児研修会

東大阪市の私立保育会では月一度、障がい児研修会を開催しています。

さまざまな事例の対応方法を学び、保育士同士での情報や思いを共有することで、今後の保育に役立てることを目的としています。

同じ保育士に出席してもらう月と、全園参加できる拡大勉強会を交互に行い、日ごろの素朴なテーマから専門的な内容まで研修を重ねています。40年を超える現場経験をお持ちの臨床心理士の先生、豊富な経験を積んだベテラン保育士などが講師陣となっています。今年度は、園長や主任の先生をはじめ18人の保育士が参加しています。

9月には、18人が3つに分かれ、テーマごとでグループ討議をし、各園での取り組みや、同じような問題に共感しました。後半は、前回事例を発表した園がその後の様子を報告。続いて新たな事例が発表され、講師の先生からのアドバイスをいただき、次回にその後の様子を発表します。

いつもの保育で感じている悩みを、他園の保育士も同じように感じていることが分かり、心理学の専門家の客観的なアドバイスは、保育士の支えとなる大切なことだと思います。（編集委員N・M）

グループ討議の様子

旬

食欲の秋。戻り鰹はトロよりうまい
赤い羽根募金も今年で66回目

秋の訪れる泉州地方では、9月の岸和田祭に続き各地で祭が続く。だんじりの形も岸和田だんじりから、泉南の大八車風のだんじりまで各種あり、なかなか面白い。

稲穂が垂れ、新米に続いて、ミカン・柿など果樹も色づく食欲の秋。食いしん坊には堪らなく嬉しい季節。鮎は子を持ち、鯖は脂のり、戻り鰹はトロよりうまい秋一番。

日本人が大好きなマグロ。宮崎県日南市で04年には969本獲れたマグロが、昨年は何と81本！　抱卵期、日本の漁船が休業の間、外国船が網で根こそぎ乱獲。かなわんで！

その昔、父親は専門店にしか置いてないものを買って来て、食べさせてくれた。デパートで、「マグロのトロくれ！」とダボシャツ腹巻きに雪駄履きのおっさん。「大将、高うおまっせ!?」と店員。「高かったらどないしたんや、金は有る、さっさと包め！」そんな話を聞きながら、大トロを口一杯頬張ったあの頃が懐かしい。

赤い羽根の共同募金が今年で66回目を迎える。近年の不景気からか、募金額が目標額を下回っているそうな。私の町内会では以前、幹事が、昼不在の家も夜の遅い家も一軒一軒集めて回った。私が会長の時に、町内会費から一定額を募金にと変えたら、町内から大変喜ばれた。誰かが言うたらなあかん。当園も配分金を三度も頂戴し、大変感謝。

細やかなお返しをと思い、毎年寄付者として名前が掲載される金額を個人で募金。貰いっぱなしで無いことを公に示したいの気持ちから。

地区募金会から街頭募金の要請があり、保育園としての感謝を込めて職員が5歳児を2、3人連れて例年参加。園児は大きな声で（園でちゃんと練習）、「きょうどうぼきんに、ごきょうりょく、くださ～い！」おばあちゃんや女子高生が「やぁ可愛い！」と次々と入れてくれる。施設関係者の街頭募金では、例年ほぼトップの金額を集めている。

さて、維新の動きがいま衆目を集め、連日の報道。次の衆議院選挙の行方は如何。本来は保守の他党派から、代表の人気にあやかり我も我もの押し掛けが輩出。沈みかけた舟に誰もが「いつまでも乗ってられるか!!」だろう。よく似た党派からの摺り寄りに、「別に無理して来なくて結構！」というのは、強い。（H・N）